



## FUKUSHIMAものづくり 企業ファイル(No.13)

このコーナーでは、福島市に立地しているものづくり企業の知られざる魅力にスポットをあて、紹介します。

今回は「株式会社福島三技協」さんです。



第9回ふくしま再生可能エネルギー産業フェアにおいて大賞を受賞

操業以来、築き上げてきた経験と実績を兼ね備えて、設計から運用まで情報通信に関する業務を総合的に展開しています。  
また、新たな技術開発にも力を入れ、大型風力発電機保守点検用ドローンは企画から製造まで全て自社で行い、実用化に向けた実証実験を重ねています。  
「品質の妥協はありえない」。そんな真つすぐなポリシーの基、身近な通信インフラに関する製品や、小惑星探査機に搭載される製品も、熟練スタッフが最善で最適な一品を目指しており、丁寧なものづくりを強みとする企業です。

絶えずビジネスに新たな価値を創造・提供します

株式会社  
福島三技協



### 【会社概要】

所在地：福島市土船  
(福島西工業団地)  
代表者：代表取締役社長  
後藤 貞明  
設立：昭和62年10月  
資本金：2千万円  
社員数：202人  
主力事業：無線通信部品の製造、通信エンジニアリングサービス、技術支援・人材派遣  
連絡先：☎593-3111



■問／商工業振興課  
☎525-3721

### クローズアップ

#### 点検用ドローン開発プロジェクト

十分な安全対策を行った上で実証試験に挑み、産業技術総合研究所 福島再生可能エネルギー研究所にてドローン飛行による風車のダウンコンダクタ導通試験に成功しました。



▲ドローンを使い風車を点検

#### 開発者コメント

これまでにない新技術をドローンに搭載しました。メンテナンスを軸とする技術提供を行うと共に、福島が目指す再生可能エネルギーの普及に貢献していきます。



市場戦略室長 兼  
技術開発部長 福島 雄一さん



We Love♥ふくしま!

### 第44回「新しい『くだもの宝宝箱』」

いよいよ4月27日、道の駅ふくしまがグランドオープンします。

ピアノをイメージした広々とした建物に、直売所やフードコート、レストランなどお馴染みの機能が入るほか、レンタサイクルなど観光拠点としての役割を果たし、木質豊かな屋内子ども遊び場やドッグランも併設します。ここから、地域産業振興や交流の動きが広がっていくのが本当に楽しみです。

その運営に当たり、一つ悩みがありました。道の駅ふくしまの最大の目玉商品は、「くだものの宝宝箱」ふくしまのくだもの。そのラインナップは、初夏のサクランボに始まり、モモ、ナシ、ブドウ、カキ、リンゴと続きますが、その後は端境期となり、春には売り込む旬のくだものがないのです。

それなら、6次化商品に重点を置くことも一つの選択肢で

すが、足元を見れば、春には甘いイチゴが店頭並び、最近ではハウス栽培のメロンが通年で出回っています。いずれも質にこだわる福島の農家さんが育てた美味しいものばかり。

なぜ、これらは「くだものの宝宝箱」に入っていないのでしょうか？

調べてみると、農水省や本市の農政上、くだものは「木になるもの」。イチゴやメロンは、狭義のくだものには該当せず、野菜扱いだったのです。しかし、広義ではくだもの。一般的にはそれが常識でしょう。「フルーツ王国ふくしま」のブランドを一層強化するものなのに、外しておくのは非常にもったいないです。かくして、イチゴやメロンも「くだものの宝宝箱」に仲間入りしました。

オープン後は、情報発信拠点である道の駅から、四季を通じ、旬のくだもので「くだものの宝宝箱」ふくしまをPRします。市民の皆さんも、改めて新顔も含めて「くだものの宝宝箱」の宝石たちをご賞味いただき、贈答にもお使いください。

福島市長 木幡 浩